



TITLE:

## ニュース 附属図書館に“業務機械化作業グループ”を設置

AUTHOR(S):

---

CITATION:

ニュース 附属図書館に“業務機械化作業グループ”を設置. 静脩 1971, 7(5): 5-6

ISSUE DATE:

1971-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36628>

RIGHT:

---

 議 会

## 図 書 館 商 議 会 専 門 委 員 会

第9回 昭和45年10月21日    第10回 昭和45年11月25日  
 第11回 昭和45年12月23日

**〔第9回〕 テーマ：附属図書館と保存図書館**

昭和45年10月末現在で、京都大学の蔵書数は290万冊を越える。それに対して、本学における書庫の収容可能数（書架棚板の長さ90cmに図書25冊を収容可能として計算）は、286万冊余で、全体としては、すでに4万冊近い未収容図書があることになっている。このような、収容可能数の赤字・黒字は、部局によって、それぞれ違いがあるが、大学全体として、早急に保存図書館の計画をすすめる必要がある。

その場合、保存図書館を別個に建てるか、それとも、中央館を新築して、現在の中央館の建物を保存図書館として使用するかについて審議が行なわれた。

**〔第10・11回〕 テーマ：学内における図書館長の地位**

これまで、附属図書館や部局図書館のあり方、大学全体としての図書館システムの問題等の討議が続けてきたが、今回からは、図書館長の問題の討議に入ることになった。

問題点としては、図書館長と評議会の関係、図書館長と商議会との関係、さらには、商議会と総長および評議会との関係等を、どのように考えるべきかについて審議された。

とくに、商議会のあり方については、他大学の事例をみても、かなりまちまちであり、また、館長を自動的に評議員とすべきかどうかについても、評議会のあり方とも関連して、各大学ごとに取扱い方が違っている。京都大学の図書館行政という観点から考えた場合、どうあるべきかについて、つき込んだ意見がいろいろ出されたが、行政組織等に関する学内の専門家の意見も聞き、さらに審議を続けることになった。

## 昭 和 4 5 年 度 全 国 図 書 館 大 会

＜とき：昭和45年11月11日（水）～13日（金）　ところ：広島市＞

本年は図書館法施行20周年でもあり、「協力体制の確立」と「社会との結びつきを強めよう」という大会スローガンのもとに、全国各地の図書館人、および社会教育関係者、図書館利用者を集めて、盛大な幕開けとなった。

初日は開会式や記念講演（升田幸三氏：人生雑感）があり、2日目は、館種別、問題別の15の部会に分れて、終日熱心な討議が行なわれた。

大学図書館の部会は、広島大学会館を会場として開かれたが、午前中は共通テーマ「大学図書館改革の基本問題」をめぐり、国立・私立から報告があり、討論が行なわれた。午後は「図書館業務の機械化」の問題について、報告・討論があり、その他沖縄の大学図書館に対する本土大学図書館の協力の要請（琉球大学）や、アメリカにおける大学図書館の問題点について、ハワイ大学の鈴木幸久氏より報告があった。

第3日目は、各部会での討議のうち、諸方面に要望すべき事項を全体会議で討議し、7項目の要望が採択されて大会を終了した。

---

 ニ ュ ー ス

**附属図書館に“業務機械化作業グループ”を設置**

さる8月中旬より開かれていた“フォートラン”の研修会が終ったので、このほど、これ

をもとにして、雑誌総合目録をコンピューターにのせるべく、実験作業を実際に行なうため、“業務機械化作業グループ”が本館に設けられた。

同グループは研修に参加した本館の職員6名で構成され、自然科学欧文篇の一部を計算機で編集するためのプログラムを作成して、デバッグし、問題点を検討し、本年3月をメドに一応の結論をだすことをめざしている。また、さらに本館受入雑誌の管理についても検討する予定である。

なお、機械化にはその前提として、標準化が重要な問題であり、今後各部局側との連絡調整が必要になってくる。

## 資料紹介

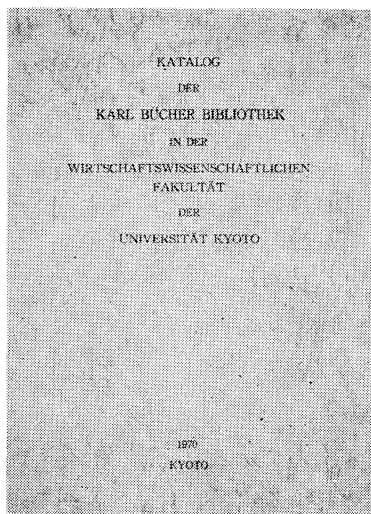
○カール・ビューヒャー文庫目録、京都大学経済学部同文庫目録作成委員会編。1970年3月刊。330P.

本書は経済学部の所蔵する K. Bücher (1847～1930。ドイツ新歴史学派の経済学者) 文庫の目録である。この文庫が岩崎小弥太氏の手をへて本学部の蔵書となったのは、大正13年のことであるが、日本にはこの前後に、著名なドイツの経済学者の蔵書が相次いでもたらされている。第一次大戦終結にともなうドイツ経済の窮迫に帰因するものであろう。主要なものをあげると、メンガー文庫(一橋大学)、ゾンバルト文庫(大阪市立大学)、マイヤー文庫(本学部)などである。

ビューヒャー文庫の内容は経済学を中心とした社会科学全般におよぶことはいままでのないが、その主要な軸の一つは、ドイツを中心としたヨーロッパ諸国の経済史に関する文献であろう。各種の社会問題に関する広範な蒐書も見逃せない。通常のコレクションでは、とかく逸脱しがちなパンフレット、抜刷りの類も実に丹念に保存されている。長い教授生活中に贈られたと思われる博士論文の数は通常の図書館におけるそれを上回るのではあるまいか。「社会政策学会論集」100巻、「シュモラー年報」82巻、「国民経済・統計年報」129巻など、個人の蔵書としてまれにみる充実ぶりといえよう。

この蔵書目録は写真・序言・目次・凡例・分類表・本文・索引・あとがきより構成されている。本文(285頁)は分類順に排列されており、「京都大学法学部・経済学部欧文図書目録分類表」によっている。索引は各著作の記入語(多くは著者名。団体出版物等は書名)をアルファベット順に排列して作成した。巻頭の写真は最も年代の古い M. Luther の“Von Kauffshandlung und wucher (1524)”に、ビューヒャーの書簡、自作の統計表、および蔵書印を組み合わせたものである。

ビューヒャー文庫目録(表紙)



あとがき 本号は図書館員の声の特集号でしたが、静脩は隔月刊なので、“利用者の声”特集号(その一)とは4ヵ月間のへだたりができました。今後は特定テーマをめぐって、利用者・図書館員の声を、同一号に同時に載せるような企画を立ててみたいと考えています。1971年の初めにあたり、紙面充実のための諸兄姉のご鞭撻を期待いたします。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 7, No. 5 (通号38号) 1971年1月15日発行・編集発行人：岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111(内線) 2220-2238